

世界と比べた日本の地域的特色 | 自然環境の特色

1 単元の概要

本単元は、世界的視野から見た日本の地域的特色と、日本全体の視野から見た大まかな国内の諸地域的特色を追究することによって、わが国の国土の特色を様々な面から大観することを主なねらいとします。ここでは、自然環境から見たわが国の地域的特色を視点として追究します。特に、島国であるわが国の海岸は、砂浜やリアス式海岸、岩場など変化に富み自然豊かなものです。中でも北九州市は「干潟」が残り、多様な生物の宝庫にもなるなどの特色があります。それら海岸に着目した地域の自然を基に、わが国の自然環境への関心を高めると共に、その特色を大観しましょう。

2 学習のねらいと手だて

- 世界や日本の地形や気候などの自然環境の特色をとらえ、日本では自然災害が発生しやすく防災対策が大切であることを理解させ、日本の自然環境に地域差が見られることを大観させる。
- 曾根干潟などの具体的な事例を基にわが国の自然の環境の特色を多面的・多角的にとらえさせ、持続可能な自然環境の在り方に対する自分の考えをまとめさせる。

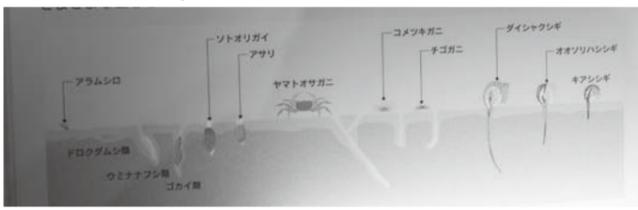


ズグロカモメ

3 指導計画（総時数 8 時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 世界の2つの造山帯の位置や、世界と比べた日本の山地の特色をまとめる。	○ 後の自然災害の時間との関連を図るために、わが国で地震や噴火が多い理由を自分の言葉でまとめさせる。	1 時間
II 世界と比べた日本の平野と川の特徴をまとめる。	○ 世界と日本の河川の比較を図に示しながらその特色をとらえさせる。	1 時間
III 日本の海岸と海流の特色について調べ、環境保全について考える。 ① 大まかな海岸の種類や海流の特色について調べる。 ② 日本における干潟の分布や、そのはたらきなどについて調べる。 ③ 曾根干潟について調べる。	○ 海岸地形については、自然物と人工物（埋め立て）などが存在することを押さえ、リアス式海岸など変化に富んだ自然の海岸に着目させる。 学校での学習 ○ 干潟について、事前に基礎知識を身に付けさせる。 博物館での学習 ○ 干潟のジオラマを通して、その特徴を知り、曾根干潟に生息する生物について調べるようにする。 ◆ 干潟のジオラマ ◆ 自然発見館	1 時間 2 時間
IV 世界の気候の分布と各気候帯の特色をまとめる。	○ 主な都市の雨温図を活用しながら、気候の特色を説明させる。	1 時間
V 日本の気候区分と季節風や海流との関係から、その特色について調べる。	○ 日本列島の断面図を活用しながら、気候の地域差について理解させる。	1 時間
VI 各地で起きている自然災害を調べ、その原因と防災対策について考える。	○ 自分の地域や校区で想定される身近な自然災害について触れるようにする。	1 時間

4 学習展開例（2時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
干潟の分布、さまざまな機能やはたらきなどについて調べてみよう。		学校での事前学習 1 時間
I 干潟の分布について調べる。  「曾根干潟の風景」	○ 干潟とは何かを説明し、その分布について地図で確認させる。	 干潟地図
II 干潟のもつはたらきについて調べる。	○ 干潟のもつはたらきについて、インターネット等で調べさせる。	
曾根干潟について調べてみよう。		博物館での学習 1 時間
I 干潟のジオラマなどを見てその特徴を知る。	○ 干潟について、視覚的・立体的に認識させる。 ○ 食物連鎖についても着目させる。	◆干潟のジオラマ カブトガニ ヨシ ハクセンシオマネキ ヤマトオサガニ アオギス シバナ チュウシャクシギ 干潟で見られる足跡とはい跡
 干潟の生物		◆「曾根干潟」パネル ズグロカモメ ◆展示映像「ズグロカモメ」 ◆「干潟の生きもの」パネル ◆「絶滅の恐れのある干潟の鳥—ズグロカモメ」パネル
II 曾根干潟に生息する生物について調べる。	○ カブトガニの産卵やズグロカモメの繁殖・越冬などと曾根干潟とのかかわりについて調べさせ、干潟の役割を理解させる。	

5 博物館での学習

干潟の分布、さまざまな機能やはたらきなどについて調べてみよう。

学校での事前学習
1時間

ここでは、わが国の海流の種類やその特色と、海岸の特色について学習します。中でも、自然として残る海岸の中で、「干潟」に着目させます。そして、干潟の分布や広さ、さまざまな機能やはたらきなどについて、各種文献や資料とインターネット等を使用し、ワークシートにまとめます。

曾根干潟について調べ、わが国の自然環境の保全について考えよう。

博物館での学習
1時間

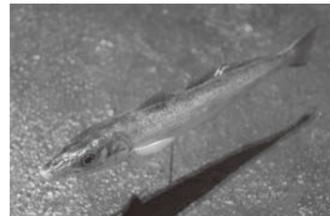
自然発見館の曾根干潟ジオラマでは、干潟の様子を立体的に見ることができます。普段見ることが難しい曾根干潟に生息する絶滅のおそれのある生き物を見ることができるので、事前に学校で学習して得た知識をさらに深めることができます。特にズグロカモメについては、その生態や調査活動などについて、展示やビデオから調べることができます。そして、曾根干潟がもつ自然の役割を考え、それらの自然を私たちは今後どのようにして守っていくことが必要であるのかについて考えましょう。



曾根干潟ジオラマ



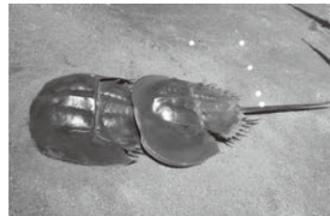
「ズグロカモメの渡り」パネル



アオギス



ズグロカモメ



カブトガニ

POINT 自由課題として

干潟を { このまま保存していこうという考え方
干拓や埋め立て地として有効活用していこうという考え方

それぞれの考え方の背景について、インターネットや新聞記事などを参考に自分で考えてみよう。

1 干潟のジオラマをみて、干潟の特徴や曾根干潟に住む生物をあげてみよう。



【特徴】

- ・ 餌が豊富
- ・ 希少生物が生息している。
→生物を餌とする鳥の宝庫でもある。
- ・ 周防灘の沿岸に干潟が発達。
- ・ 泥干潟と砂の混じる干潟がある、等。

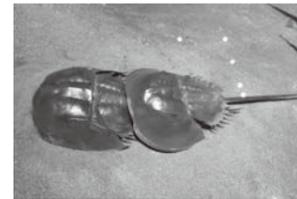
【生物】

- ・ ズグロカモメ、カブトガニ、アオサギ、ハクセンシオマネキ、…等。

2 ズグロカモメとカブトガニについて、ビデオや展示パネルをみて調べてみよう。



- ・ 全長 32cm ほどの小型のカモメで世界中に約 5000 羽と少なく、国際的に絶滅の恐れのある種に指定されている。中国東部沿岸の湿地で繁殖し、韓国、日本、台湾などの干潟に渡って越冬する。…等。



- ・ 以前は瀬戸内海、九州北部の沿岸部に生息していたが、埋め立てなどで減ってしまい、今では絶滅危惧種に指定されている。現在でも多くのカブトガニが生息している地域は、曾根干潟、福岡市今津湾、佐賀県伊万里湾、山口県山口湾などである。…等

3 曾根干潟の役割やはたらきについて、調べたことや感じたことをまとめよう。

- ・ 曾根干潟は潮の満ち引きに応じて、冠水と干出を繰り返し、豊富な酸素と太陽エネルギー、川から流れ込む有機物、栄養塩類などが多くの生物の生息を可能にしている。また、天然の浄化槽として大切な場所である。
- ・ 微小藻類、バクテリア、ゴカイ類のすみかになっており、カニなどにとっての餌が豊富である。さらにカニなどを餌とする鳥も多く飛来し、食物連鎖が成り立っている。…等。